

農林水産省農村振興局長賞

かやぶきの里保存会（京都府^{なんたんし}南丹市）

つくろう地域 守ろうかやぶき

京都府南丹市美山町の北集落は「かやぶきの里」の愛称で呼ばれ、芦生原生林を源とする由良川の最上流、若狭街道沿いに開けた集落です。ここでは集落住民全員が会員の「かやぶきの里保存会」を組織しています。また永続的な歴史的景観の保全と地域

住民の生活を両立するために、住民出資による「有限会社かやぶきの里」を設立しました。この「かやぶきの里保存会」と「有限会社かやぶきの里」とが車の両輪となり、建造物の維持管理および観光施設の運営、観光客へのボランティアガイド等の対応を組織的に



多くの観光客が訪れる「かやぶきの里」

行っています。

北集落では昭和 40 年代半ばに文化庁による文化財指定のための予備調査が実施されましたが、機が熟しておらず指定には至りませんでした。時が経ち昭和 63 年に再び文化財(伝統的建造物群保存地区)の調査が実施され北集落が最終候補地となりました。当初地元住民には、かやぶき屋根は瓦に葺き替えることのできなかつた貧乏の象徴だという考えが強く、人に見られることに対する抵抗が根強くありました。しかし、後継者のUターンや、かやぶき職人見習いの若者の登場や、複数の移住者が現れ、かやぶきの価値を再認識し、住民合意へ向けて流れが変わりました。そして、自分たちのかやぶきの里を守り、村の歴史をお互いに勉強する目的で昭和 63 年 10 月に「かやぶきの里保存会」が設立されました。平成5年には伝統的建造物群保存地区に指定されました。かやぶきの里保存会では、火災からかやぶき屋根を守るため、年2回地元消防団と共催で、放水銃の点検を兼ねた防災訓練を行なっています。また、5名のボランティアガイドで団体の観光客の対応を行なっています。

また、当初は集落内のお店等は個別での独立採算で経営を行ってきました。そのような中で、全体的な会計処理、共通施設の維持管理、増加する来訪

者への対応、きび工房加工所の運営など、個々では対応が難しい課題がでてきました。これらを解決するために、各事業所を総括した組織として地元住民出資による「有限会社かやぶきの里」を平成 12 年4月に立ち上げました。

地域の景観保全や、ボランティアガイド、田舎体験などの実施によって、京阪神を中心として多くの来訪者が訪れるようになり、現状の施設や対応者数では対応に困難が見られる場合が生じてきています。一方で、この集落では少子高齢化が顕著であり、後継者の育成が大きな課題です。そのため、景観保存と観光を両立させた地域づくりを進め、一層魅力あるかやぶきの里づくりに取り組むと同時に、都市住民の定住を促進し、地域の活性化と後継者育成に努めていきたいと考えています。

■講評

「かやぶきの里憲章」において、かやぶき集落を保全するためのルールを定め、地域住民がそのルールを長い間守っている精神が素晴らしいと言えます。地区では農業をしっかりとやっている姿が見られ、農業と観光とのバランスをとっていることがうかがえました。こうした 20 年以上にわたる地域づくりが高く評価されました。



ボランティアによるガイド



防災訓練の様子